酵素の溶菌作用で、細菌・ウイルスを不活化。
二次汚染を防止し、清潔な空気環境をもたらす。

溶菌・酵素フィルタ
ENZYME filter

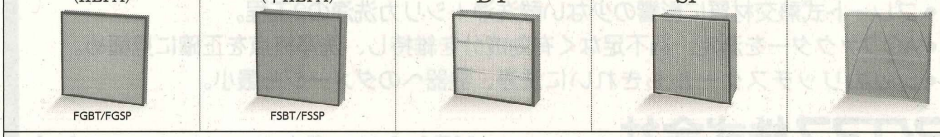
[特　長]
1.強力な溶菌力で長期間効力が持続します。
2.環境・人体に無害な天然酵素を使用しています。
3.圧力損失・捕集効率は従来のフィルタと変わりありません。

[従来フィルタとの比較]
従来フィルタ

フィルタに微生物とダストが捕集されます
酵素フィルタ

酵素フィルタ内で微生物が溶菌されます

HEPAフィルタ	HEPAフィルタ	中高性能フィルタ	中高性能フィルタ	プレフィルタ
コウソグランパ (HEPA)	コウソセミパ (準HEPA)	コウソフル BT	コウソフル SP	コウソプレ


FGBT/FGSP　FSBT/FSSP

AQC 株式会社アクシー
本　社：大阪市住之江区南港北1-2-29 TEL 06(6612)7700
東　京：東京都中央区日本橋茅場町2-11-8 茅場町駅前ビル7階 TEL 03(3662)8858
製品については、お気軽にお問い合わせください。
お問い合わせ TEL.06(6612)7700

アクシー

溶菌・酵素フィルタの販売伸長

企業体質の変革を前進　PM2.5対策品も発売へ

中條　敬史課長（ヤマシンフィルタ）

渡邊　健部長

谷　豊社長

エアフィルタメーカーのアクシー（社長＝谷豊氏、本社・大阪市住之江区南港北1―2―29）にとって、2020年は企業体質の変革を前進させた1年だった。19年夏、同社は油圧フィルタ大手のヤマシンフィルタ（社長＝山崎敦彦氏、本社・横浜市中区）の100％出資子会社となった。以来、組織改革が進み、20年夏には本社工場を従来の大阪市住之江区平林南から同区南港北の地に移転した。新工場では生産の高効率化・可視化を実践する体制を順次整備し、需要変動に柔軟に対応できる生産体制の強化を図っている。営業活動では“ウィズ・コロナ”の社会情勢下で感染リスク低減ニーズを捉えた溶菌・酵素フィルタを商品化し、販売実績が伸長。新年以降には、ヤマシンフィルタの合成高分子系ナノファイバーをろ材に使用し、捕集効率に優れ、圧力損失（圧損）の低いPM2・5（微小粒子状物質）対策フィルタの本格発売に乗り出す。変革が着実に進んでいる。

谷社長（兼ヤマシンフィルタ執行役員営業本部長）は「アクシーは長い歴史と多くの長所を持つエアフィルタメーカーだが、ヤマシンフィルタとのシナジーを創出するためには、ヤマシンフィルタがもたらす効果をもっと注入していく必要がある。アクシーがこれまで持ち合わせていなかった、ろ材開発については、ヤマシンフィルタが保有する海外の生産工場を利用した量産や、ヤマシンフィルタが取引のある海外のサプライヤーから部品を調達して生産コスト低減につなげるなど、シナジーを発揮できる分野は多い」と話す。

アクシーの20年度のエアフィルタ販売動向は、コロナ禍の影響もあってビル空調分野でのメンテナンス需要が鈍化。これに伴いプレフィルタの販売量は減少している。「当社の売上構成比の中でビル空調用は大きなウエートを占めるため、上期は総じて商品の出荷動向が緩やかだった。ただ下期以降は回復基調にある。また従来訴求してきた工場向けの防虫対策品『バグストッパー』や油煙対策品『オイルストッパー』などの特殊用途品は引き続き堅調に出荷できている」（営業部・渡邊健部長）。

“ウィズ・コロナ”への対応が求められる中で芽生えた需要もある。空気環境の安全・安心を確保するため、感染へのリスク低減を図りたいとするニーズが浮上。ニーズを捉えた商品として同社は「溶菌・酵素フィルタ」を昨年来、前面に訴求している。アクシーがHEPAフィルタや中性能フィルタで既に商品化していた同類のフィルタを一部ブラッシュアップし、新たにプレフィルタの分類にも追加したもの。地球環境や人体に無害な天然酵素をろ材の成分に使用。同酵素の溶菌作用でフィルタに捕集したエンベロープ型ウィルスを不活化する効果が期待でき、フィルタからの二次汚染を防ぐ機能を備える。強力な溶菌力で長時間効力が持続することに加え、圧力損失（圧損）と捕集効率は従来のフィルタと変わらない数値レベルを維持するのが特長。「時節柄、学校、医療・福祉施設などからの引き合いが強く、実際に導入例が増えている」（同）。パッケージエアコンメーカーや空調機メーカーにも純正品として採用されるなど、同社は手応えを得ているようだ。

新年以降、ヤマシンフィルタとの初のコラボレーション商品、PM2・5対策フィルタ「NanoWHELP（ナノウェルプ）」の販売を開始する。ヤマシンフィルタの合成高分子系ナノファイバーを使用し、200ナ～800ナメ（ナノは10億分の1㍍）の繊維が三次元の綿状となり、ナノレベルの空隙が無数に空くことで、PM2・5などの異物が空隙に捕集される構造が特長。低圧損であるため、マスクやエアフィルタのろ材に適している。ナノファイバーの特性を生かし、同フィルタでPM2・5を95％以上捕集できるという。ヤマシンフィルタのナノフィルタ営業部エアフィルタ営業課の中條敬史課長は「初期値段階で80％以上という高い捕集効率を誇り、圧損に関しても初期圧損に近い状態を長く保つことのできる『持続的な低圧損』を可能にする。この点は、競合他メーカーにはない特徴と言える」と自信を示す。

アクシーは新年以降、同フィルタの市場訴求を強めていく方針。谷社長は「20年は生産、営業、品質保証の各部門で親会社とのシナジーを根付かせる改革を進めてきた。育んできた種が21年に芽を出してくれそうな期待感がある。新しい武器もある。新年が当社にとって実りある年でありたい」と述べた。